

# 銅 概 況

大阪市中央区玉造2丁目28番10号  
加藤金属興業株式会社

## ◎ 2019年7月の国内電気銅建値は下記の通りです。

7月	1日	～	700円/Kg
7月	3日	～	680円/Kg
7月	11日	～	690円/Kg

2019年7月度は平均で688.10円/kgとなり、前月比11.30円/kgの値上がりとなりました。

### 海外銅価の動き

7月のLME銅相場	7/1～7/29 (安値ドル 5,805.00～6,066.00 高値ドル)
7月のNYC銅相場	7/1～7/29 (安値セント 262.45～274.45 高値セント)

7月度のLME現物は、7/1 \$5,999.00でスタート。6月の中国PMIは、アナリスト予想の50.0を下回る49.4で、1月以来の低水準となった。50を下回るのは4ヵ月ぶりであり、6月のPMIは中国以外にも大半のアジア、欧州諸国で景況の節目50を割り込んでおり、事前の多くのアナリスト予想を下回った。

米中の貿易協議が再開されることは決まったものの、両国の主張に隔たりは大きく、協議の進展に懐疑的な見方は依然根強い。6月のPMIが下回った国が多いことは、世界的な製造業の弱さが浮き彫りになったことを示しており、反って世界経済の下振れリスクが増していると捉える市場関係者も多く、売り圧力となっている。LME在庫は5日に30万tを久々に超え、その後は30万tを切ったところで推移した。為替についても大きな動きはなく、必然的に銅相場においても全体として様子見の相場となり、なごの状態が続いた形となった。多くの諸問題が相場を抑え込んでいる状況であると言えるだろう。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2019年1月 資料より (単位/千トン)

	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,050	23,561	+2.2%	24,237	+2.9%	24,854	+1.9%
全世界地金消費	23,108	23,782	+2.9%	24,413	+2.7%	24,981	+1.8%
全世界需給バランス	-58	-211		-175		-127	

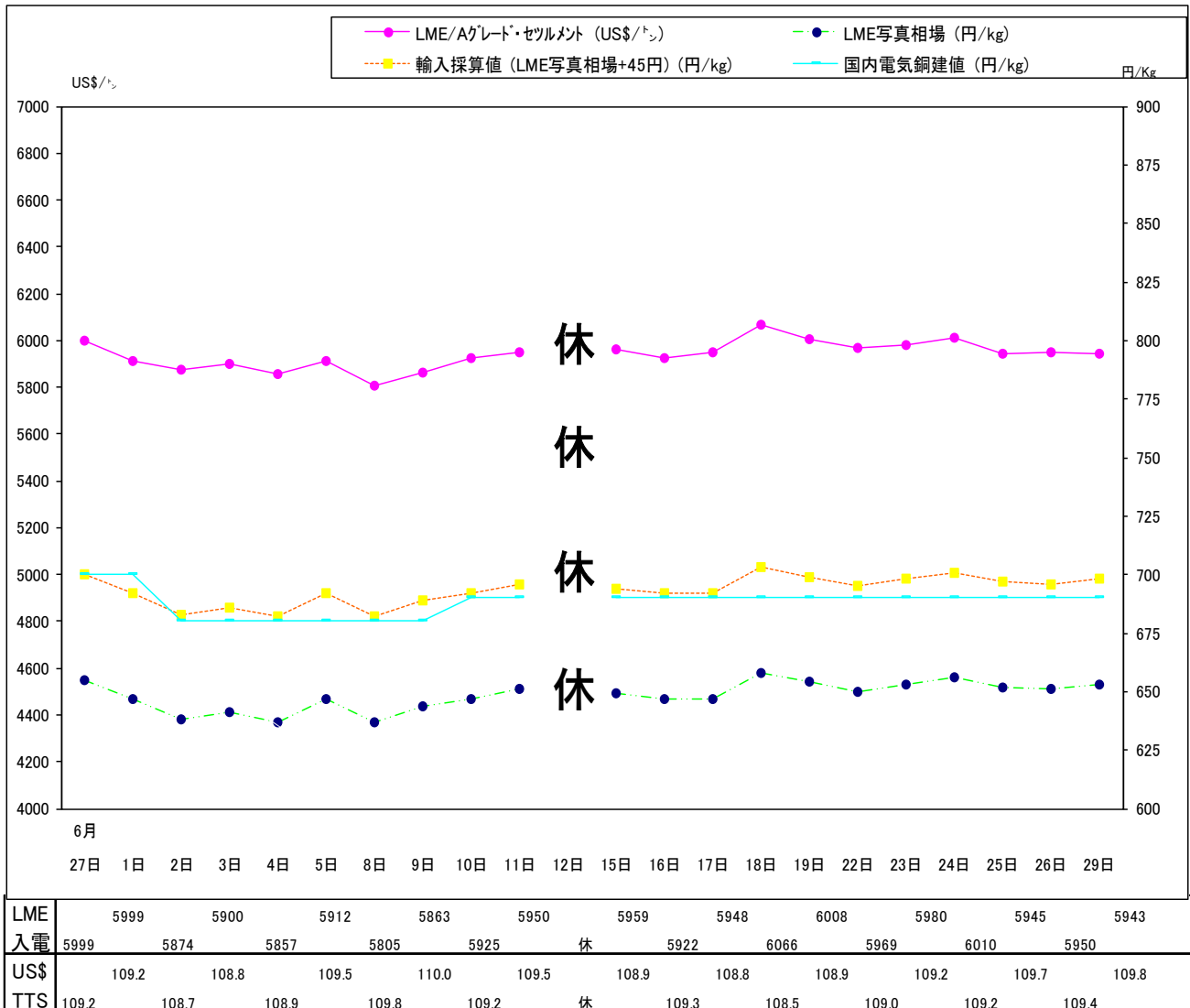
### 先行き短期見通

#### 国内銅価

7月度の国内建値は1日700円/kgでスタート。爆弾である、米中経済摩擦が取りあえず一服した形の中では、相場を動かすだけの材料は少ない。この状況では、イラン問題が最も危険数値が高いともいえる。銅相場は動かず、国内建値は700円でスタートするも、3日には早々と680円/kgへ20円ダウン、更に11日には10円アップ690円/kgとした。7月の建値平均は688.10/kgとなった。

7/30付 LME \$5,949.50、30日付 為替(TTS) 1USD=109.47円で日本円換算計算値653円/kg。2019年8月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限り、690円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 2019年7月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 7月 1日 ~ 331 円/kg
- 7月 4日 ~ 319 円/kg
- 7月 9日 ~ 307 円/kg
- 7月 16日 ~ 313 円/kg
- 7月 22日 ~ 310 円/kg

平均314.10円/kg

2019年7月は上記の通りで前月比 18.40円/kgの値下げとなりました。

これはLME亜鉛相場安を受けて引き下げられたもの。

## ◎ その他の建値

電気鉛	7月	274.00 円/kg	(前月比+ 6.20 円/kg)
電気錫 (相対)	7月	3,390.00 円/kg	(前月比- 110.00 円/kg)
ニッケル (溶解用)	7月市中価格	1,600.00 円/kg	～ 1,650.00 円/kg
銀	6月平均	53,520.00 円/kg	(前月比+ 480.00 円/kg)
	7月30日	58,970.00 円/kg	
金	6月平均	4,745.65 円/g	(前月比+ 181.91 円/g)
	7月30日	5,007.00 円/g	

## ◎ 伸銅品関係

### 2019年6月の伸銅品・品種別生産速報 (全国ベース)

		5月度実績	6月度速報	前月比	前年6月度実績	前年同月比
銅	板	1,663	1,787	7.5%	1,312	36.2%
	条	19,867	21,999	10.7%	23,106	-4.8%
	管	8,999	9,396	4.4%	9,549	-1.6%
	棒	2,086	2,263	8.5%	2,334	-3.0%
	線	231	261	13.0%	274	-4.7%
黄銅	板	550	655	19.1%	653	0.3%
	条	8,355	8,678	3.9%	9,452	-8.2%
	管	456	485	6.4%	575	-15.7%
	棒	14,565	14,591	0.2%	15,975	-8.7%
	線	2,062	2,099	1.8%	2,730	-23.1%
青銅	板	1,965	1,776	-9.6%	3,056	-41.9%
	条					
	棒	236	234	-0.8%	274	-14.6%
	線	65	59	-9.2%	77	-23.4%
洋白・その他	板	379	373	-1.6%	508	-26.6%
	条					
	棒	37	34	-8.1%	37	-8.1%
	線	369	435	17.9%	499	-12.8%
合計	61,885	65,125	5.2%	70,411	-7.5%	

6月の伸銅品生産速報は、65,125トンで前月比プラス3,240トン、前年同月比マイナス7.5%となり、前年同月比が7ヶ月連続でマイナスとなりました。

## 電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の4月分実績及び5月分推定によれば、4月分の総計は、59,401tで前年同月比4.8%増と好調で2ヵ月ぶりに増加に転じた。活況が続く建設電販や自動車部門を軸に、電力と通信も健闘した。

一方、5月分の銅電線出荷は、総計56,800tで同3.3%増と続伸する見通し。大型連休で稼働日が少ないながらも建設電販と自動車が増加で好調なほか、電力等も動き出した。また、内需計が55,500tで同6.1%増と比較的高い伸びを示した。

また、4月分の部門別出荷をみると、プラスグループは通信、電力、自動車、建販の4部門。通信は需要の山場に差し掛かり、6.5%増と3ヵ月ぶりに伸びた。一部建販絡みのLANケーブル等も健闘している模様。電力は、OFからのCVケーブルへの張替需要が動き出し、東京五輪を見据えた案件が下支えしている。自動車は、国内自動車生産台数が77.4万台で同5.3%増加したことなどと連動し、電線出荷も同10.5%増と7ヶ月間連続で伸長した。建設電販は、東京五輪施設、首都圏再開発、リア新幹線関連などが活況であり、30,000tに迫る勢いで、同11.1%と二桁の伸びを示した。これで7ヶ月連続のプラスとなった。

一方マイナスグループは電気機械、その他内需、輸出の3部門だった。電気機械は米中貿易摩擦と中国経済の減速で同6.4%減少し、8ヵ月連続で前年ラインを下回った。その他内需も同1.4%減で5ヵ月連続、輸出も同18.6%減と大幅に下降した。

### 2019年4月分(実績)・2019年5月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	4月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	5月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	4月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	953	16.9	6.5	900	▼ 5.6	9.0	1,496	(15.6)	▼ 3.4
電力	(1,025) 3,911	(▼64.0) ▼ 7.2	(▼43.3) 3.5	(1,000) 4,300	(▼2.4) 9.9	(▼51.5) 4.4	684 4,768	(▼68.4) ▼ 4.2	(▼42.5) 4.7
電気機械	(363) 11,627	(▼14.8) 0.3	(▼31.5) ▼ 6.4	11,200	▼ 3.7	▼ 3.6	322 15,565	(▼17.0) ▼ 1.8	(▼37.2) ▼ 11.0
自動車	(164) 7,615	(▼ 3.5) ▼ 1.2	(59.2) 10.5	7,100	▼ 6.8	13.2	530 35,288	(▼ 27.2) ▼ 10.5	(29.6) 16.4
建設・電販	(40) 29,761	(▼73.3) 5.3	(▼4.8) 11.1	28,100	▼ 5.6	10.6	35 34,526	(▼82.8) 5.1	(▼7.9) 9.3
その他内需	(72) 4,234	(12.5) 4.7	(53.2) ▼ 1.4	(500) 3,900	(▼21.8) ▼ 7.9	(20.8) ▼ 3.5	57 7,547	(▼21.9) 1.9	(14.0) 7.3
内需計	(1,664) 58,101	(▼54.5) 2.6	(▼34.2) 5.5	(1,500) 55,500	(▼9.9) ▼ 4.5	(▼39.4) 6.1	1,629 99,189	(▼54.3) ▼ 2.6	(▼26.0) 7.2
輸出	(1) 1,300	(▼99.7) ▼ 41.3	- ▼ 18.6	(100) 1,300	(9900.0) 0.0	(300.0) ▼ 52.0	6 4,648	(▼95.9) ▼ 39.1	(20.0) ▼ 27.3
合計	(1,665) 59,401	(▼58.4) 1.0	(▼34.2) 4.8	(1,600) 56,800	(▼3.9) ▼ 4.4	(▼36.0) 3.3	1,635 103,837	(▼55.9) ▼ 5.1	(▼25.9) 5.0
心線販売	(583) 29,327	(▼43.0) 1.2	(▼56.4) ▼ 2.2	(400) 29,800	(▼31.4) 1.6	(▼66.4) 7.1	150 21,445	(▼44.0) 1.6	(▼58.0) ▼ 5.4

(注) ( )内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は

「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。

金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

### 2019年4月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	3,798	▼ 2.3	0.1	3,788	3.4	5.0	
巻線	11,061	0.3	▼ 3.4	11,734	▼ 0.6	▼ 5.0	
機器用電線	3,417	▼ 0.3	▼ 8.6	9,463	▼ 3.7	▼ 13.8	
通信用電線・ケーブル	1,443	8.0	0.5	3,118	▼ 0.8	▼ 4.0	
電力用電線・ケーブル	22,601	2.2	11.6	23,456	▼ 6.8	8.6	
被覆線	11,103	3.7	5.3	15,804	4.4	6.1	
輸送用電線	5,978	▼ 5.6	9.9	36,475	▼ 10.3	13.0	
銅電線計	59,401	1.0	4.8	103,837	▼ 5.1	5.0	
	通信用電線・ケーブル	86	13.2	38.7	284	11.8	22.4
	電力用電線・ケーブル、被覆線	3,534	20.5	73.8	4,086	17.9	73.5
	計	3,624	20.3	72.7	4,394	17.2	68.0
アルミ電線計	1,665	▼ 58.4	▼ 34.2	1,635	▼ 55.9	▼ 25.9	
	3,879,253	▼ 11.2	6.5	22,201	▼ 33.3	10.7	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	4,139	▼ 25.2	12.8	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場、第1週は、米中貿易戦争の一時休戦を受けセンチメント改善から一時上値を試みるも、各国の弱い経済指標を受け後退。また、ロンドン時間ではECBによるハト派的な発言を受け、欧州債の利回りが低下。急激なユーロ安を受けアルミ相場は下げ幅を拡大し\$1,800を下回る展開でスタート。第2週、米国6月雇用統計は予想を上回る結果で利下げ期待後退からドル高圧力を受けアルミ相場の重しとなった。LME在庫がGW意向で約30万MT減少しており、二週間ぶりの\$1,820台となった。このまま在庫は減少すると見込まれる。第3週、中国第2四半期のGDPは6.2%と米中貿易戦争の影響を示す結果となった一方で、6月単月の鉱工業生産・小売高などは予想を上回る結果となり、同国の景気刺激策が効き始めた兆候とのも方から相場のサポート材料となった。米6月小売高が予想に反した伸びを見せたことでニッケルが急騰。つられる形で銅、アルミも上昇。アルミは2か月ぶり高値の\$1,856.5まで上昇。LME在庫に4.9万トンの増加があり、下げ上げ両方の要因が重なりやや弱気な推移となる。第4週、英国ジョンソン新首相は10月のEU離脱を繰り返し表明、ユーロが売られ、強いドルがメタル価格を総じて押し下げた。しかしながら米中協議の再開などポジティブなニュースもあり狭いレンジでの推移となると思われる。\$1,800台前半\$20の狭い範囲での推移予想であるが、FOMC以降は大きく動く可能性があると思われる。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2019年 7月積 1,905.00~1,915.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2019年 7月積 220.50~221.70 円/kg
- ・NSP 2019年 5月 249.90 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2019年 7月~9月 270.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'19年5月	'19年6月	'18年6月
月生産	*2,351.0	2,290.0	2,284.0
平均日産	*75.8	76.3	76.1

(\*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2019年3月	2019年4月	増減	2018年4月	増減
横浜	147,400	150,900	+3,500	122,500	+28,400
名古屋	133,500	134,100	+600	129,600	+4,500
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	295,900	300,000	+4,100	267,100	+32,900

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

